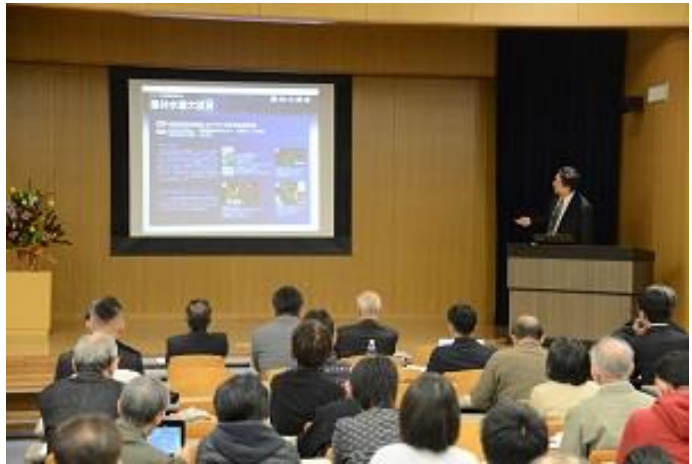


会報

無肥研だより

第7号

2019年5月1日 発行



「無肥研だより」第7号をお届けいたします。今回は2019年3月17日に開催させて頂きました通常総会・研究報告会・懇親会の報告と前号に続きましてお茶生産者の紹介をさせて頂きます。「無肥研だより」はご希望があれば一般の方にもお届けするようにさせて頂きます。又ホームページにも掲載しております。これからも無肥研の広報誌として、当会の活動紹介や行事の案内等に努めてまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

★ 活動報告

通常総会・研究報告会・懇親会 (2019年3月17日)

1. 通常総会

2018年度通常総会が2019年3月17日午前10時半より正会員90名（委任状提出者を含む）の出席のもと開催されました。2018年度の事業報告・決算報告、2019年度の事業計画・予算案はいずれも原案通り可決されました。また、追加議案として栗田光雄理事死去に伴う後任補充として二見弘子氏が選任されました。



2. 研究報告会

午後1時から2018年度研究報告会が開催されました。農業を取巻く環境が大きく変動する中で、環境にやさしく、且つ安全な食を生産する栽培法として注目されております無施肥無農薬栽培（以下「無施肥栽培」という）。その特質の解明や収量の安定的確保の観点から無肥研は調査研究を続けており、その結果や経過を年に1度この報告会で発表しています。今回は無肥研、京都大学、東北大学、奈良先端科学技術大学院大学の研究者によって行われました。研究者・生産者・流通関係者や一般の方など、102名の参加者が集いました。



開会に先立ち堀江武理事長より挨拶があり、急逝された栗田光雄副理事長を偲んでお話がありました。同副理事長が、19年間に亘りデータの裏付けをとってまとめられたクワの長期無施肥栽培に関する論文は、無施肥栽培を考える上でいろいろな示唆に富んでいる。施肥した一般の圃場と比較して生態系としての構造の違い、構造に伴った機能の違いを科学的に調べることによってどのような特徴をも

っていて、作物あるいは人間の健康にどのように影響しているのかを研究解明されることが望まれます。この研究報告会はそういう意味で貴重な場なので活発な議論をしてほしいと話されました。今回は無施肥栽培に関連した研究報告8題の発表があり、本間香貴東北大教授が座長を務めて進行して下さいました。

2018年は7月の豪雨、その後の高温、9月の台風被害と続き、無施肥田にも被害が及んだことから、気象の変動にも適応性が強い品種の研究の必要性や、雑草防除と水管理の重要性について、改めて報告がありました。また、生育後期の生長を促すために生育前期の生長を抑えた深水栽培の比較調査の報告がありました。



無施肥栽培茶園の調査初年の報告では、施肥栽培と比較して収益性には大きな差がないと考えられるとのことでした。ダイズ茎疫病の耕種的防除法の確立を目的とした実験では茎疫病菌接種と短期湛水の組み合わせが初期生育に及ぼす影響について報告がありました。

また、植物の栄養吸収、生長や環境適応に寄与する有用な共生微生物が無施肥の方が多く思われるので、無施肥栽培にうまく活用することをめざし、次年度以降も実験を継続される予定との報告や、無施肥栽培と慣行栽培の水田における生物環境構造を比較することにより、安定した生産性の実現をめざすとの報告もありました。さらにドローンを用いたリモートセンシング（遠隔計測）について、栽培管理支援情報の提供により、無施肥栽培調査研究への寄与が期待されるとの報告もありました。それぞれの研究報告に対して活発な質疑応答が行われ、有意義な報告会となりました。

3. 懇親会

午後5時より行われた懇親会には68名の参加があり、報告会に引き続き活発な意見交換が研究者・生産者・消費者の間で行われました。無施肥無農薬栽培米純米大吟醸酒「京神楽」で乾杯ののち、小芋、ジャガイモ、人参、玉ねぎ、ネギ、切り干し大根、キャベツ、大根、油揚げ、ごぼう、酒粕、味噌などを使った煮物、きんぴら、肉じゃが、酢味噌和え、おでん、おから、粕汁のほか、サニーレタス、人参、玉ねぎやポテトのサラダ、サツマイモの天ぷら、納豆、ちらしずし、ご飯、みかんジュース、奄美大島のたんかん、お茶などを味わっていただき大変ご好評をいただきました。因みに小麦粉、白ごま、醤油なども無施肥無農薬のものを使用いたしました。



これからどのような実験をしていくべきか、無施肥栽培を行なう上で、近年多発する異常気象や災害に強い品種や、良いと思われる栽培方法はあるかなど、予定の時間を過ぎても熱のこもった話し合いが続きました。無肥研活動がさらなる発展していけるように頑張っていきたいと思います。



★ 生産者紹介

無施肥無農薬栽培茶園 実施者

片木古香園 (かたぎこうかえん)

- | | |
|------------|------------------|
| 生産者 | : 片木 明 |
| 生産地 | : 滋賀県甲賀市信楽町 |
| 茶園経営規模 | : 2.6ha |
| 無施肥無農薬栽培面積 | : 20.7a |
| 実施開始年 | : ①2005年、②2006年 |
| 栽培品種 | : ①在来種(実生)、②ヤブキタ |



茶園は①5.7aの在来種実生園と②15aのヤブキタ園の2カ所に分かれてあります。在来種の実生園は約30年間有機栽培を続けて、2005年より無施肥無農薬栽培に切り替え13年目になり、ヤブキタ園は同様に2006年より無施肥無農薬栽培に切り替え12年目になります。ヤブキタ園は周囲の慣行栽培茶園とは離れた所に位置し、農薬類の飛散は考えられません。②茶園では煎茶の他に抹茶になります碾茶や紅茶を生産しています。2018年の煎茶は1番茶を5月20日に摘採し、親子番茶を6月3日さらに7月25日2番茶を紅茶として摘採しました。11月5日には刈り落として揃え1年の作業の終了となりました。また碾茶は通常約3週間黒の寒冷紗を掛けて遮光し摘採しますが、2018年は作業手順の遅れにより5月10日～6月13日までの1ヶ月を越える被覆となりました。園内の除草は春から秋まで適宜数回に渡って手取りで行い草は園外へ持ち出しています。煎茶における1番茶の収量は生葉で約60kg/10aであります。



★ 今後の行事予定

2019年8月4日(日) 茶園見学会 (会員茶園及び京都府宇治市小倉無肥研試験圃場)

上嶋伯協 様 茶園 (京都府綴喜郡井手町)

片木 明 様 茶園 (滋賀県甲賀市信楽町) 予定

2019年11月17日(日) 農産展・試食懇親会

2020年3月15日(日) 通常総会・研究報告会・懇親会

- ・以上の他にも各種イベントの開催を検討しています。行事の詳細は、開催1ヶ月ほど前にご連絡させていただき、ご案内及びホームページでご確認ください。

会報についてのご意見を、郵便、FAX、e-mailでお寄せ下さい。皆様のお力で会報を充実させていきたいと存じますので、ご協力のほどお願い申し上げます。(編集担当)

〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町106-2
特定非営利活動法人 無施肥無農薬栽培調査研究会
e-mail : mail@muhiken.or.jp FAX : 075-751-0368

URL : <http://muhiken.or.jp/wp/> Facebook : <https://www.facebook.com/muhiken/>